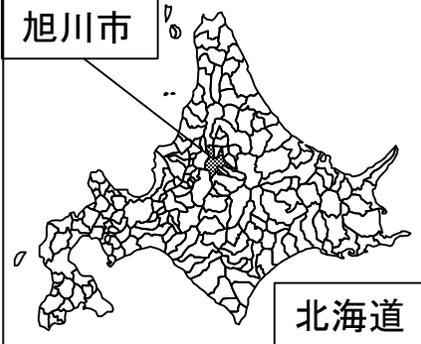


## 田んぼアートを利用した生産者と消費者の交流（北海道旭川市東鷹栖集落協定）



- 水田をキャンパスに見立て、稲の葉色の違いを利用し巨大な絵を描くプロジェクト。生産者と消費者の交流や地場農産物の売上げ増、荒廃農地防止対策など地域活性化に取り組む。

面積：477ha（全て田） 交付金額：10,016万円（個人配分50%、共同取組活動50%）  
協定参加者：農業者371人、農地所有適格法人4法人、その他2 協定開始：平成13年度

## 地域の現状

- 当地区は、北海道旭川市の北部に位置し、突哨山、鬼斗牛山が連なる鬼斗牛丘陵の等高線の出入りの多い急傾斜面に広がる水田地帯である。
- 高齢化による担い手不足等により、将来に向けた農地の管理や農村集落の維持が困難になることが懸念されるとともに、平地地域と農業生産条件の格差が大きい地域であることから、これを補正するため平成13年度から本制度を実施。
- 共同取組活動として農道・水路の維持管理や無人ヘリコプターによる共同防除オペレーターの育成、上川ライスターミナルの利用料助成による施設利用促進に伴う米の高品質化、ブランド力向上の取り組みを実施。また、マリーゴールドを農道沿いに植栽して農村景観保全活動を実施するなど農業の生産性及び収益の向上や担い手の育成を図り、集落の維持と地域活性化を目的とした活動に取り組んでいる。



【協定農用地の様子】



【田んぼアート】

## 取組の概要

- 地域資源を活用した都市農村交流を目的とし、JAたいせつを中心に行政や土地改良区など地域が一体となり水田に巨大な絵を描く「田んぼアート」を実施。
- 田んぼアートフェスティバルなど生産者と消費者の交流イベントが活発化したことに加え、近隣小学校と連携し本水田での親子田植え体験や周辺の生態系について学ぶ生き物調査を実施するなど、田んぼの持つ多面的な役割など消費者の農業への理解の醸成に寄与。  
(田植え体験・生き物調査参加者：H22年168人→H27年366人)
- 地場農産物のPRを目的とし、田んぼアート隣接地に平成24年度から農産物直売所を開設。「田んぼアート」の知名度向上に伴い地場農産物の売上額が増加し、農業者の所得向上に寄与。  
(売上額：H22年350千円→H27年2,600千円)
- 「田んぼアート」を実施したことで、周辺農地への農村景観保全の意識が高まり、荒廃農地発生防止に寄与。



【たんのの生き物調査】



【農産物直売所開設】